



現代少女

の新用語

▲買収

買はかふ、收はをさめる。つまり買ひ収めるの意義である。この頃やかましい海軍問題などについても或る種の新聞社では内閣政府の顔色を伺ひ、金を貰つて、その日々の紙上に本當の事をかゝないのがある。こんな風な新聞社は、政府から買収された、内閣から買収されたと云つてよいのである。

▲調達

と、のへ達しるの意味で、軍用金調達など、さうした事によつて知らせると云つた意義に外ならぬ。例へば、ある書物を讀んで、フト何かを思ひつくとか、思ひ當るとか、さうした場合には、その書物を讀む事によつて暗示をうけた。その書物からヒントを得たといふ譯なのである。

▲色彩

いろどりと云ふ言葉である。だが、今日では單に繪の具などの色彩と云ふ意味に用ひられて居るばかりでなく、種々な場合に用ひられる事が多い、左に一二の例を挙げる。

▲花子さん

があらなのお轉變じみた眞似をなさるのは、つまり自分の色彩をつきり際立せて見せたためなのよ。」「見島高德と云ふ人物の有る無しは、歴史上の疑問だと云ふけれど、櫻の梢を削つたあのお話は、鬼にかく吉野朝時代に非常な色彩を添へたと云ふものねえ。」

▲耽溺

耽はふけること、溺はおほれること、物事に熱中し過ぎた場

く用ひられる言葉である。

▲過程

みち筋といふ事である。

「あの人の今日まで経來つた過程を調べて見ると、全く可哀さうな身の上です。」こんな風に云ふのである。

▲病的

殆んど病氣と云つても差支ないといふ程の意味である。

▲本能

うまれながらに持つて居る性質で、親がその子を可愛がり、子がその親をなつかしむと云ふやうな斯うした自然の情愛とか、乃至は人間が美しい着物を着たがたり、おもしろいものに多く用ひられる言葉である。

▲魅力

チャーミングと云ふ言葉と同じ意味で、人をひきつける力、つまりあの人は魅力に富んだ女だとかチャーミングフルな人だとか、さういふ風に云ふのである。

▲輕佻浮華

物事に輕はずみで、うかつとしてゐることである。

▲自恣放縱

自まゝで、だらしないといふ意味。

▲頑健

非常に達者なこと。

▲反撥心

そむき、はねかへす心で、反抗的心もちを云ふのである。

▲早熟

早く熟すと云ふ文字であるが、早くから何か解つて來て、ませ氣味の少年少女などを形容して、早

いものを食べたいと思つたり、金持になりたいと考へたりする、さうした自然の慾望を云ふのである。

▲因習

古いならはしと云ふ意味である。習慣、風習、コンベンションなどと同じ言葉なのである。

▲私淑

ある人に師事してまなぶ事、または或る人を内々尊敬して居て、かけながらにもその人の言行を學ぶ、そんな場合に用ひる言葉である。

▲暗示

英語で云ふヒントに同じ意味で、暗に示す。つまりそれとな

熱の少年とか、少女とか云ふのである。すつと以前は汽車とか電車とか、軌道をはつれた、それだけに用ひて居た事であらうと思はれる。だが今日では、いろんな場合に用ひられて、一寸普通外れの事をして、ヤレ脱線したの、脱線の行爲だのと、さうした言葉を日常につかふやうになつた。

▲修飾

修め飾るの意義である。事物を修飾すると云ふ場合に用ひる。

▲筆致

筆つきと云ふ意味である。あの人の筆致は典雅優雅であるの、あの文章はつやっほい筆致だの、そんなやうに云ふ言葉なのである。

▲情趣

おもむきといふ程の意。『野枝子さんて方は何と云ふやさしい方でせう？一寸一言仰有る言葉にも、何とも云へない柔らかな情趣がありませのねえ』——斯うした風に云ふのである。(永代美知代)